1/13
3.7.2

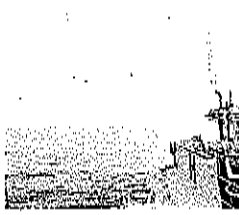
〝異次元〟の戦争態勢

日米2プラス2

11日、米ワシントンで開かれた日米安全保障協議委員会（2プラス2）は、日本の敵基地攻撃能力保有を踏まえた新たな共同作戦態勢、沖縄を対中国の出撃拠点にするための基地強化などを打ち出しました。まさに〝異次元〟の戦争態勢づくりです。

「米軍指揮下」鮮明

敵基地攻撃能力



日本の敵基地攻撃兵器として導入が狙われている長距離巡航ミサイル・トマホーク（米国防総省DVIDS）

「周辺の抑止力・対処力を強化するものであり、強く支持する」。米側は2プラス2の席上、日本の「防衛力の強化」を絶賛しました。

日本の「防衛力強化」は、2021年4月、バイデン米大統領が就任後、最初に臨んだ日米首脳会談で、菅義偉首相（当時）が対米公約したことが発端。念頭にあるのは、「自衛権」への対応など、対中軍事作戦に自衛隊を動員することです。

菅氏の後を継いだ岸田文雄首相は、敵基地攻撃能力の保有などを明記した安保3文書の改定や、5年以内の軍事費2倍化を視野に入れた大軍拡予算の閣議決定を相次いで強行。憲法も世論も踏みにじり、「防衛力強化」という対米公約に満額回答したといえます。

とりわけ、2プラス2共同発表では、敵基地攻撃能力（＝攻撃能力）をめぐる言及が目立ちました。「日本は、新たな戦略の下、…反撃能力を含めた防衛力を抜本的に強化する」との決意を表明。「米国との緊密な連携の下での日本の反撃能力の効果的な運用に向けて、日米間の協力を深化させる」としています。

安保3文書では、敵基地攻撃について「情報収集を含め、日米共同でその能力をより効果的に発揮する協力態勢を構築する」（国家防衛戦略）としています。2プラス2でこうした「日米共同」の敵基地攻撃態勢の構築が確認された形です。

重大なのは、共同発表が、日本の「常設の統合司令部」設置を歓迎し、「同盟におけるより効果的な指揮・統制関係を検討する」としていることです。

米軍は陸海空・海兵隊を一元的に指揮する統合司令部を常設しています。日米の統合司令部間の連携が検討されているとみられますが、敵基地攻撃の大前提である情報は、圧倒的に米軍優位です。統合司令部の連携が確立されれば、事実上、陸海空自衛隊が丸ごと、米軍の指揮下で敵基地攻撃を実行する危険が生じます。

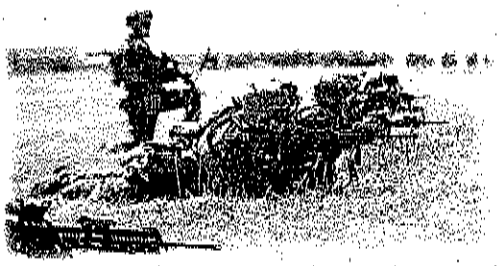
歴代政権は、敵基地攻撃能力の保有に加え、他国軍の指揮下に入ることも憲法違反との立場をとっています。

〝捨て石〟対中拠点

南西諸島基地強化

2プラス2は、民意を踏みにじっての沖縄県名護市辺野古の新基地建設継続に加え、沖縄を含む南西諸島を中心としたさらなる基地強化を表明しました。南西諸島を対中国の戦争拠点にして、再び〝捨て石〟にするものです。

日米2プラス2で示された新たな米軍増強計画



（米国防総省DVIDSから）

横浜ノース・ドック
小型揚陸艇部隊を新編
（13隻・約280人、2023年春ごろ）

馬毛島
空母艦載機離着陸訓練場、自衛隊基地を建設
（2026年度まで）

沖縄
第12海兵沿岸連隊を創設（2025年まで）
辺野古新基地建設は引き続き推進
嘉手納弾薬庫の日米共同使用拡大

とりわけ強調されているのが、中国沿岸部で対艦作戦などを行う「海兵沿岸連隊（MLR）」の創設です。MLRは、海兵隊の大規模な部隊再編計画「フォース・デザイン2030」に基づくもので、最初の部隊が昨年3月、米ハワイに置かれました。

今後、沖縄に駐留する、砲兵などを中心とした第12海兵連隊を25年までに改編。長射程の対艦ミサイル部隊を含む歩兵部隊である「沿岸戦闘チーム」、対空ミサイルを有する「沿岸防空大隊」、独立した持続的な活動を可能とする「沿岸後方大隊」などで構成される第12海兵沿岸連隊に強化します。

MLRには、これまで使用していた高機動ロケット砲システム（HIMARS）に代わり、新兵器の地上配備型対艦ミサイル「NMESIS」が配備されます。

MLRは南西諸島に小規模部隊を機動展開し、島しょ部から敵対国の艦船・航空機を攻撃する「遠征前進基地作戦（EABO）」を実行する部隊です。MLRは有事の発生前から島しょ部に部隊を分散し、有事の際には各離島にとどまって戦闘を継続することを想定。2プラス2は「南西諸島を含む地域において、日米の施設の共同使用を拡大し、共同演習・訓練を増加させる」と表明しており、宮古・石垣など先島諸島の自衛隊基地への海兵隊の展開・共同訓練が狙われています。

共同訓練をめぐっては、昨年11月にも、南西諸島の戦場化を想定した大規模な共同統合演習を実施。自衛隊は住民の反対の声を無視し、民間港湾・空港を使用し、機動戦闘車を公道走行させるなどの訓練を行っています。

2プラス2は、嘉手納弾薬庫（沖縄県嘉手納町など）の日米共同使用を「歓迎」しました。同弾薬庫では、すでに自衛隊が03年から一部土地を火薬類の貯蔵施設として共同使用していますが、大分な「継戦能力」の強化・維持のためだとして同弾薬庫内の火薬庫を新たに共同使用することとしています。同火薬庫は改修工事等を経て25年度以降に使用開始予定です。

南西諸島などに迅速に部隊・物資を展開可能な米陸軍の小型揚陸艇部隊の米陸軍横浜ノース・ドック（横浜市神奈川区）における新部隊や、馬毛島（鹿児島県西之表市）の自衛隊基地の整備など、沖縄以外の拠点強化も盛り込まれています。